

♪ 令和2年度早川南小学校だより ♪

はるき



令和2年7月31日

No.12

校長 河西弘明

とても頑張った1学期が、無事終了しました…！53+4(臨時登校日)日間！

53日間と、予定より21日間も短い学期となりましたが、感染拡大防止のための臨時休業など、保護者の皆様のご理解とご協力により、本日、無事に終業式を迎えることができました。本当にありがとうございました。

昨日は、1学期の大掃除をしました。全校のみなで、お世話になった校舎の隅から隅まで、すぐにお正月を迎えられるくらいきれいにしました。子どもたちも、協力して一生懸命に取り組みました。たてわりグループごとに、上級生と下級生の組み合わせで、分担した特別教室を中心に、1学期間の埃をぬぐいました。普段の掃除ではできない箇所を行ったので、校舎全体がさっぱりした感じになりました。中には、校長室のサッシの溝から始まり、各学年のサッシの溝まで、スポンジと洗剤と水を使って、丁寧にきれいにしてくれた児童もいました。

明日から25日間の夏休みに入ります。新型コロナウイルス感染拡大の第2波が広がる状況で、いつもの開放的な楽しい夏休みとはいかない部分もあるかと思



います。ですが、子どもたちにとっては、一生で一回しかない今年の夏です。是非、各ご家庭で工夫されて、家族団らんの思い出に残る休みにしていただきますことを、お願いいたします。子どもたちは、この1学期間、不平不満も言わずに本当によく頑張りました。褒めてあげてください。そして、21人が無事にそろって2学期を迎えられることを祈っております。保護者の皆様も、どうか健康に留意され、お過ごしください。

長梅雨だから…の新たな試み。1学期の最後に…

6月末に、職員間で児童の様子の情報交換をした際に、「最近、廊下を走る子が目に付きます。」という報告がありました。長梅雨のため、校庭で思い切り羽を伸ばすことができないストレスからか、子どもたちは体力を持て余しているのかなと考え、職員と児童とで話し合い、7月の青空時間に体育館開放を行うことにしました。ところが、いざそう決めたのに、梅雨の終盤期で曇りや太陽がのぞく日もあり、子どもたちは校庭を所狭しと駆け回れる日が続いていたのですが、昨日(7/30)やっとその機会が訪れました。

「今日は、雨が降っているので、体育館で鬼ごっこをします。やりたい人は来てください!」という、6年生からの校内放送が流れると、続々と集まってきました!なんと、全校全員集合!

初めての試みですので、私も様子を見に体育館に行くと、上級生が最初は鬼になり、さっそく『鬼ごっこ』が始まりました。学年も関係なく、みんなで体育館フロア全体を時間いっぱい、ずっと追いかけてまわり、どの子も汗びっしょりでしたが、とても楽しく過ごす子どもたちの、いっぱいの笑顔を見ることができました。子どもたちのその様子を見ながら思ったことは、…

- ①すごい! 体力あるなあ!
- ②反射神経もいい! (よく、ぶつからないなあ!)
- ③仲間に入りたいなあ! ……



時折、私を盾に背中に隠れる子もいて、道具も何も要らず、人数制限も特に要らず、本当に単純な遊びだけど、思い切り走り回ってストレス解消できる『鬼ごっこ』という遊びの魅力に、今さらながら気付かされました。

昔ながらの遊びは、人と直に戯れることができ、人間関係もそこで育まれ、体づくりにも脳にもいい遊びが多いですね。臨時休業期間中にも、保護者から心配の声が上がったスマホゲームやネット上でのオンラインゲーム。明日から始まる夏休み期間中も、その心配をされている保護者の方もいらっしゃると思

ます。私たち教職員も、実のところ心配しています。

先日ある冊子に、山梨県立北病院の精神科医でいらっしゃる、志田博和先生のご講演の概要が掲載されていました。少しだけ抜粋して、引用させていただきます。

…「マジ、やばいんだな…」と思って頂けたら、今日の私のお話は成功かなと考えています。…

…(中略)…

ゲームの世界の中での「勇者」…現実と違ってゲーム内では、「勇者」となってドラゴンを倒しに行ったり、「必要とされている狙撃手」だったりして、ゲーム内の仲間から必要とされることもできます。しかし私たちのリアルな人生では、多くが「勇者」ではなく、名もなき「鍛冶屋」や「村人A」だったりするわけです。ゲーム内の社会では、真の社会性は獲得できないと思います。大事なものは、子どもの頃から相手と視線を合わせ、表情を見ながら互いの感情を受け止め合うコミュニケーションです。

…(中略)…

あくまで私の感覚としてですが、スマホの使用は一日1時間以内、その他のスクリーンタイムを全部合わせて一日2時間以内が限界かなと考えます。

…(中略)…

依存的なゲームやSNSでの交流が、現実社会の中での孤独感から回避するために行われているのだとしたら、現実社会で達成感のある交流をその子に与えないと、ネット社会からは戻ってきません。代替するものを提供できない限り、依存は良くなりません。よく話を聞くこと、トレーニングも必要ですし、自己肯定感を高める関わりが必要です。親御さんへのアドバイスとしては、朝ご飯を、ちゃんと食べさせてください。中学生位までは、22時には寝る習慣を維持してください。毎日可能なかぎり、子どもと話をしましょう。表情を見ながら話をしましょう。年齢によっては、適度なスキンシップも必要です。良いことはさりげなく褒めることなどを、お勧めします。

…(中略)…

競馬なら最終レースで終了、パチンコなら閉店時間で終了です。しかしネット依存は、永遠に継続が可能です。その「裏に潜むもの」は「孤独」なんです。人間はデジタルデバイスを介してでは、孤独感を癒せないと考えます。どうすれば我々は人に戻れるのか。このままデジタルデバイスに酔っぱらって生きていくしかないのでしょうか。重大な岐路に立っていると思います。…

NPO法人 山梨いのちの電話 広報誌第55号(2020年5月発行)より

スマホ等使用の便利さの裏側に、ゲーム依存やネット中傷など、未成熟な子どもたちへの良くない影響が心配される現代・未来において、子どもたちが適切にそれらと付き合っていくスキルを身につけさせてあげるのが、大人の責任だと思います。是非、保護者の皆様にも、ご理解とご協力をお願いし、子どもたちの健全な発達を一緒に支えていきましょう。よろしく願いいたします。

『鬼ごっこ』から、ちょっと話がそれてしまいましたが、今年状況の中にもかかわらず、全力で体を使って、遅く追いかけてもらえる子どもたちの姿に接することができ、1学期の最後にまた一つ、昨日の青空時間は、南小の良さに気づく機会ともなりました。

梅雨明け間近を思わせる早川の夏空と大掃除後の今日の校舎

